

日雇い労働者のまち「釜ヶ崎」の 歴史と今後の展望

～オンラインスタディツアーを踏まえて～

高木ゼミ

日雇い労働者のまち 「釜ヶ崎」の歴史と今後の展望 ～オンラインスタディツアーを踏まえて～

1. 釜ヶ崎とは何か
2. 釜ヶ崎のこれまでの歩み
3. 釜ヶ崎の今を生きる
4. オンラインスタディツアーで見る釜ヶ崎
5. 釜ヶ崎の今後の展望と課題

はじめに

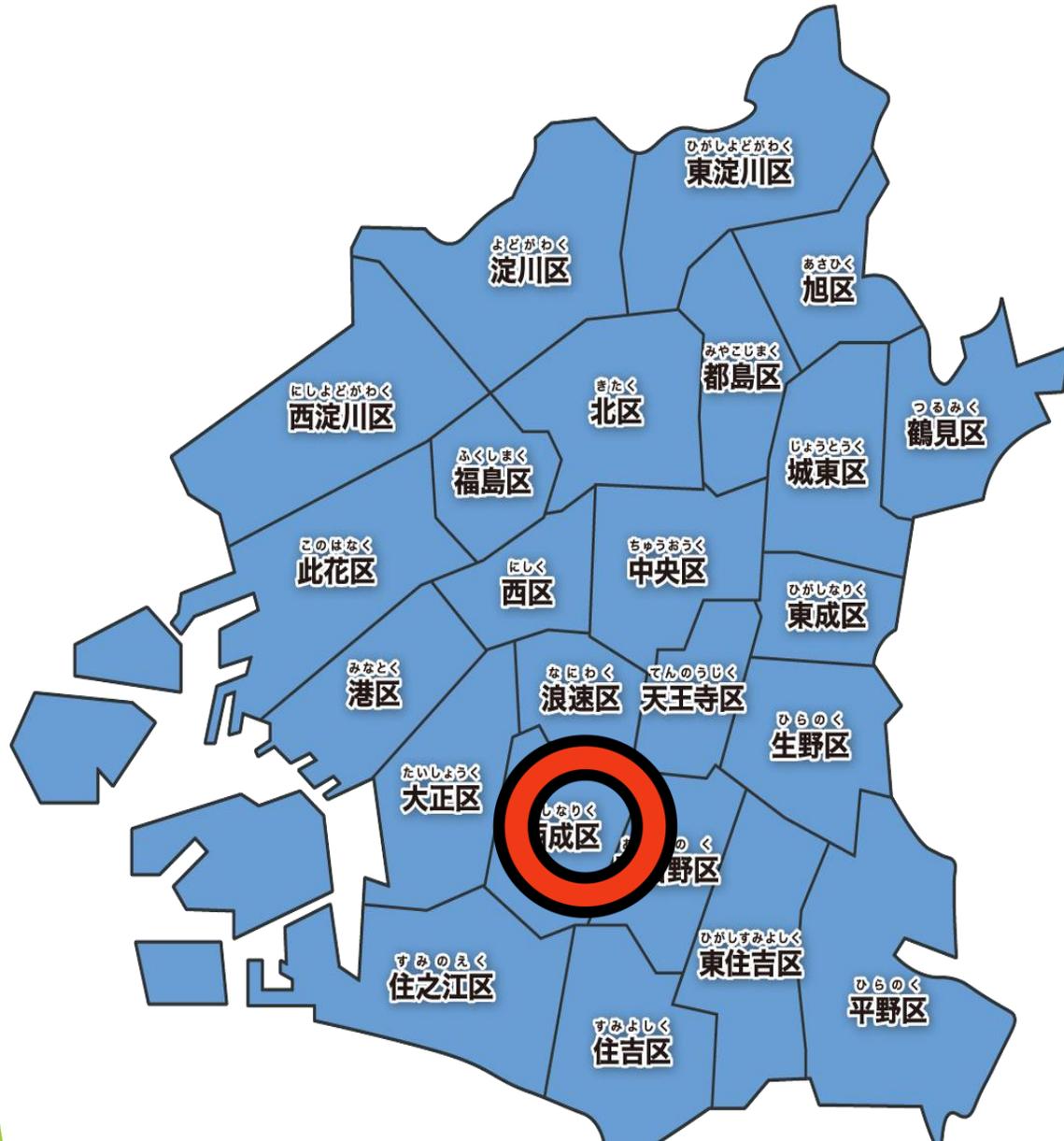
何故、釜ヶ崎の実態の研究に至ったか

演習 I において、「排除アート」に取り組みの中で、実際に大垣駅周辺の「排除アート」などを探すフィールドワークなどを通し、社会から排除されてしまうホームレスの人々の存在などに関心を持ち、そこから日雇い労働者が多く、路上生活者も多い大阪府大阪市西成区にある、「釜ヶ崎（あいりん地区）」の問題に関心を持った。

研究の目的

過去には何度も暴動などが起こっており、「まちのイメージ」自体があまり良くない大阪府大阪市西成区の釜ヶ崎（あいりん地区）の形成過程から現在に至る歴史的展開、現在の様子、地域課題などを明らかにすることにより、釜ヶ崎が果たしてきた役割や現代日本社会における社会的問題の解決の糸口を探る。

1. 釜ヶ崎とは何か



- 釜ヶ崎とは、大阪府大阪市西成区の一部
- 戦後、日本の労働者や日雇い労働者が集まったドヤ街

2. 釜ヶ崎のこれまでの歩み

戦後の復興期（1945年～）

当時、大阪は経済成長の中心地

～主な戦後のインフラ事業～

建築、港湾の開発

日雇い労働者が
集まる

ドヤ街の誕生



ドヤ街とは

- ▶ ・日雇い労働者が多く住む街のこと
- ▶ 「ドヤ」とは、「宿」の逆さ言葉であり、旅館業法 に基づく、簡易宿所が多く立ち並ぶことに起因する

1960年代～ 〈高度経済成長期〉

高度経済成長期の釜ヶ崎

インフラ整備、都市開発に大貢献

その一方・・・

多くの労働者は不安定な雇用に従事し、生活は困窮していた

労働者の街としての成長と問題



大阪博覧会

写真の出典)

nippon.com「1970年と2025年の大阪万博：『希望あふれる成長期』と『現状を持続したい成熟期』
<https://www.nippon.com/ja/features/h00344/>（2024.12.9閲覧）

不安定な雇用の結果 . . .

1961年～

釜ヶ崎では、労働環境の劣悪さや社会的な差別に対する不満が高まり、1961年には「釜ヶ崎暴動」が発生。

その後も、複数回に及ぶ暴動が続き、地域の不安定な状態が全国的に注目された

西成区（釜ヶ崎）は治安が悪い

というイメージがついてしまった . . .

1970年～1990年代 〈行政の対応と変化〉

暴動や労働者の貧困問題（1970年代）

大阪市や政府は「福祉政策」を強化

内容

生活保護制度の整備、失業者向けの支援提供



抜本的な解決にはならず

ホームレス化の深刻化（1990年代～）

バブル崩壊



バブル崩壊の街

釜ヶ崎は路上生活者の街

失業者・ホームレスが増加

3. 釜ヶ崎の今を生きる

ホームレスの生活実態

テントを張って野宿するのがスタンダード

野宿する場所にも限りがある

それだけホームレス状態が
蔓延している

野宿する場所に限りがあ

野宿場所の 奪い合いに 発展

*特に、雨や雪などの悪天候の時

奪い合いの結果・・・

駅の構内やロータリー

本来、運行時間外は立ち入り禁止
商店街でも野宿は禁止

利点：雨風を凌げる、トイレ・水道が使える

黙認

マナーがいいから



写真の出典)

文春オンライン「いつまでもただ飯を食ってごろごろしていないで...」ホームレス更生施設“自立支援センター”からの再起を図る男性の“意外な仕事観”」

<https://images.app.goo.gl/nnMp7sbnwactdTXw5> (2024.12.9閲覧)

日雇い労働者の暮らし

・主な職種

建設業、土木関係の現場仕事

・雇用形態

日雇い労働、単発バイト雇用

日数の決まった契約雇用

リーマンショック以降
仕事が急増

あいりん総合センター1階の、通称「寄せ場」に
業者がトラックでピックアップに来る

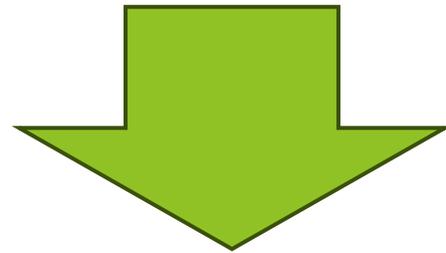
最盛期には200台
賃金 ¥ 12,000/日

寄せ場に関する社会背景

高齢化による人口減少

生活保護受給者の増加

デジタル化により全国で労働探しが可能に



アナログ式となった「寄せ場」に集まるのは
高齢者ばかりに変化トラックの数も50台程に
減り、労働者不足に業者が困っている現状

生活保護受給状況

大阪市の生活保護受給世帯は減少傾向にある

生活保護の状況

	大阪市			(参考) 全国※速報	
	世帯数	人員	保護率 (%)	世帯数	人員
令和4年4月	111,250	131,742	4.80	1,637,490	2,023,665
令和4年5月	111,377	131,549	4.78	1,639,505	2,023,336
令和4年6月	111,448	131,543	4.78	1,641,044	2,023,381
令和4年7月	111,475	131,482	4.77	1,642,399	2,023,635
令和4年8月	111,634	131,627	4.77	1,644,112	2,025,096
令和4年9月	111,458	131,402	4.77	1,644,029	2,024,420
令和4年10月	111,373	131,268	4.76	1,644,381	2,024,195
令和4年11月	111,368	131,297	4.76	1,646,586	2,026,638
令和4年12月	111,288	131,195	4.76	1,646,686	2,026,763
令和5年1月	111,130	130,974	4.75	1,645,069	2,024,421
令和5年2月	110,936	130,747	4.74	1,642,915	2,021,614
令和5年3月	111,208	131,193	4.76	1,647,341	2,027,865

西成区の生活保護受給状況 (令和4年度 平均)

西成区	21,719	23,261	21.94
-----	--------	--------	-------

ちなみに・・・

全国の生活保護率 1.63%

世帯主が日本国籍を有さない世帯の生活保護受給世帯数は年々増加

表の出典)

大阪市「生活保護の適用状況など」

<https://www.city.osaka.lg.jp/fukushi/page/0000086901.html> (2024.12.9閲覧)

西成区の社会福祉事業

西成労働福祉センター

大阪府指定支出法人

実施事業

- ・ 無料職業紹介
- ・ 労働相談、労働相談
- ・ 生活身上相談
- ・ 技能講習訓練による資格取得の支援
- ・ 求人業者への運営支援

若者が多く
受講

技能講習受講者
400人/年

炊き出し

- ◆ 開催場所：公園
- ◆ 開催頻度：毎日～週1・週2（支援団体で異なる）

炊き出しの提供団体

- ・ 支援団体・労働団体（約30年続いている）
- ・ 宗教団体（2000年頃から）

リーマンショックによる
生活保護の積極適用

1999年には約1000人ほど並んでいた
→現在は300～700人程度まで減少

あいりんシェルター

認定NPO釜ヶ崎支援機構ホームレス保護施設

実施主体：大阪市

事業対象：野宿生活を余儀なくされている「あいりん地区」の日雇い労働者

*生活保護受給者、生活保護程度の年金を受給している者

相談支援

居場所支援

高齢日雇労働者
社会的就労支援

年越時支援

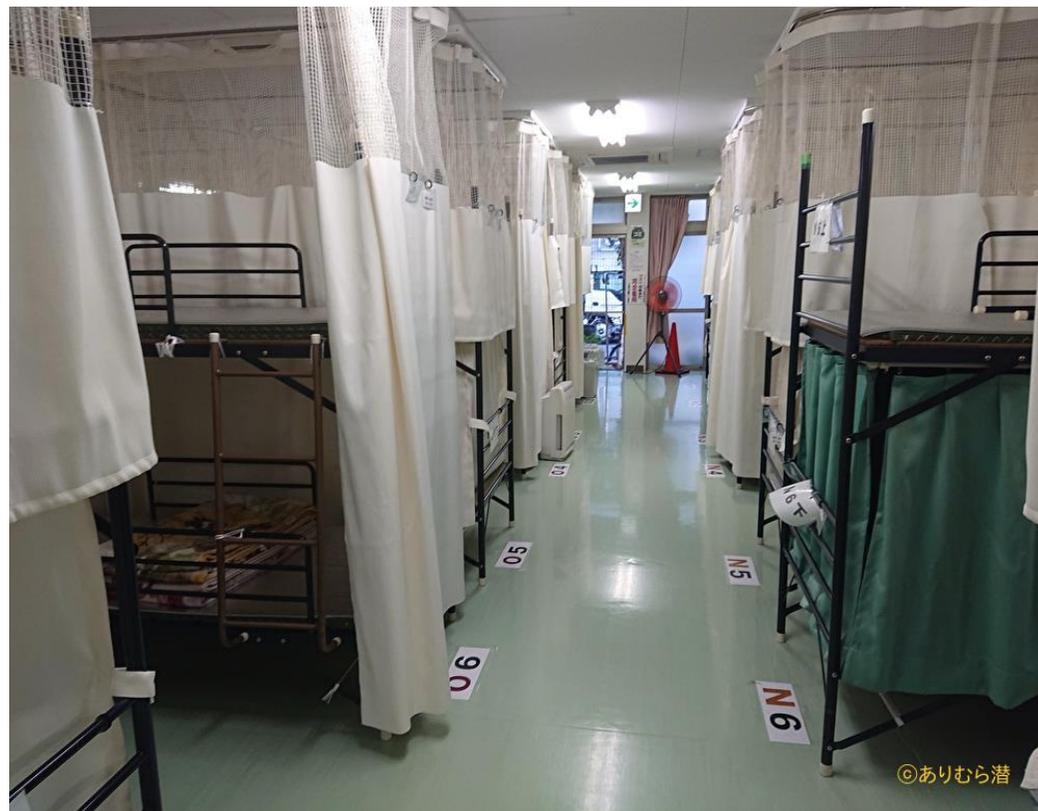
相談支援



- ・ アセスメント機能を設けた相談支援の実施
- ・ 各個人ごとの自立支援プランの作成
- ・ 生活相談、健康相談などを通して必要な施策に繋げる
- ・ あいりんシェルターのシャワーのサービス提供

居場所支援

- ・ シェルターを通じて、緊急・一時的な宿泊場所を提供
- ・ 利用者に応じて、必要に応じて物品を配布する



コロナ禍のシェルター



囲碁を楽しむ者たち

高齢日雇労働者 社会的就労支援

登録者：約600人

- ・ 高齢者特別清掃事業
- ・ 半就労、半福祉の有償ボランティア活動

肉体労働が厳しくなった55歳以上を対象
あいりん地区内外の環境美化作業
仕事が回ってくるのは週に1、2回
アルミ缶集めを自主的に行う人も多い



年越時支援

- 実施期間：毎年12月29日～翌年1月4日の朝5時迄
- 支援内容：シェルターにおいて、食事、衣服等日用品の提供
- あいりん地区に居住する単身日雇労働者（原則40歳以上）であって、あいりん職安発行の日雇労働被保険者手帳（白手帳）を所持する者
- 正当な理由で白手帳を所持できない者
- 高齢者特別清掃紹介カードを所持する者で年末年始に仕事を得られないため、自ら食及び住を求めがたい者

釜ヶ崎の再開発

2020年代、釜ヶ崎周辺の再開発と観光地化が進む

外国人観光客が増加

→外国人観光客向けのゲストハウスやカフェが増加

地域経済の活性化

近年は星野リゾートも建設された

→インバウンドに特化したホテル建設が進んでいる

露天の場所に小学校が増えた

→通学路の雰囲気悪くしないように

有料で使えるフリーマーケットスペースが増えた

無料定額診断を実施する医療センターが住宅街から
近い場所に設置

→以前より利用しやすい

→誰でも医療を受けやすい環境

防犯カメラが多数設置

→覚醒剤の売人の姿が消え、安全対策拠点施設を設置

→安全に観光客が訪れることができる

釜ヶ崎の再開発と観光地化の一方・・・

貧困層への支援や住民との共存が課題

再開発や観光地化での地域経済の活性化に伴って
貧困格差に拍車がかかっている

これまでの課題が上積みになり
施策と現状がなかなか噛み合わない

4. オンラインスタディツアーで見る釜ヶ崎

- 実施日：10月29日（火）
- 実施者：ありむら潜さん
- 実施方法：オンラインで実施。Google Earthで街並み散策

就労センターで日雇い労働者の就労支援や生活支援を行っている。

漫画家としても、釜ヶ崎の様子を漫画にして出版されている

趣旨

釜ヶ崎の実態を現地で目の当たりにしている、ありむらさんのお話を伺って、私たちの認識している釜ヶ崎のイメージとの違いや、新しい知見を得る。

貧困をはじめとする社会問題が蔓延している地域の様子を感じる。

偏見や固定観念を打破する

安全

スラム街のような後輩した様子はない

治安も改善している

→観光客が増えている

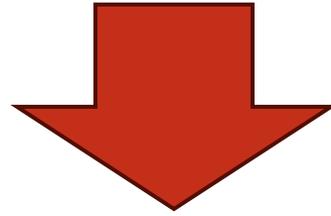
→簡易宿泊所や格安ホテルは観光客向けにリニューアル化

荒れた土地、治安が悪い→偏見、固定観念

なぜ、未だに悪いイメージが払拭できないのか

実は・・・

街の健全化・活性化に努力している



それらを妨害される・・・

YouTuberなどのインフルエンサー

「危険な街に行ってみた」など、数字を稼ぐネタにされる
無許可での撮影、迷惑行為

ありむらさん曰く・・・

「貧困が蔓延る地域」は釜ヶ崎に限らず、

貧困問題は人ごとではない
「明日は我が身」

必ずどの地域にも貧困で苦しんでいる人はいる

釜ヶ崎だけが特別ではない
どの街にも貧困地域は存在する

その日暮らし、支援がないと生きていけない（ネガティブ）
→「支え合い・助け合い」で成り立っている社会

人情の街 とも言えるのでは？

5. 釜ヶ崎の今後の展望と課題

日本の社会問題

高齢化

非正規雇用の
増大

西成区（特に釜ヶ崎）は
“**日本社会の縮図**”と
呼ばれている

社会問題は“連鎖”する

貧困問題

高齢化

働き手が全体的に高齢化
日雇い労働者が全国各地から集中

福祉制度・サービスが充分でない
住居がない（簡易宿泊所に依存）
医療サービスが不充分
健康問題

不安定な雇用・収入

経済的要因が大きく作用

非正規雇用の拡大

貧困問題

貯金がない・する余裕がない（その日暮らしの生活）
子育てが難しい（保育所が1箇所しかない）

なぜ、全国各地から日雇い労働者が釜ヶ崎へ集うのか

何かしらの事情を抱えて、社会システムから逸脱してしまった人

釜ヶ崎は社会の波に飲まれた人々の
漂流地と化している

日雇いの街としての“宿命”



社会問題の連鎖を食い止めることはできるのか

大阪市西成区将来ビジョンを策定（令和5年）

将来像を実現する3つの柱

1. 子供の夢がひろがるまち
2. 人と人がつながりにぎわうまち
3. みんなが安心して暮らせるまち

子ども施策で風穴を開ける？

少子化 子育て政策

<https://www.city.osaka.lg.jp/nishinari/page/0000595168.html> 大阪市ホームページより

子どもたちをどう扱うかというほど、
その社会の魂を鋭く暴くものはない

南アフリカ共和国 第8代大統領 ネルソン・マンデラ

社会問題の現状の背景と展望

社会的孤立

- 日雇い労働者の多くは単身
- 極度の孤立状態

社会的排除

- 釜ヶ崎 = 悪い場所という固定観念
- 失業者がバブル崩壊を機に激増し、ホームレス化が進行

常態化していたものが露呈

社会的孤立

- ◆ 行政と連携して地域ネットワークをつくる
- ◆ 住民主体のまちづくり

社会的排除

- 釜ヶ崎全体のイメージを払拭する
- 釜ヶ崎の魅力発信に務める

- 釜ヶ崎の歴史、文化や魅力を“SNS”を使って発信
- 社会問題が顕著になっている分、その実態に直接触れられる、社会教育の場にする

「釜ヶ崎」の“ブランド化”

結論：ホームレス・日雇い労働者が生まれる仕組み

日本社会の
「個人主義」

本人 不足

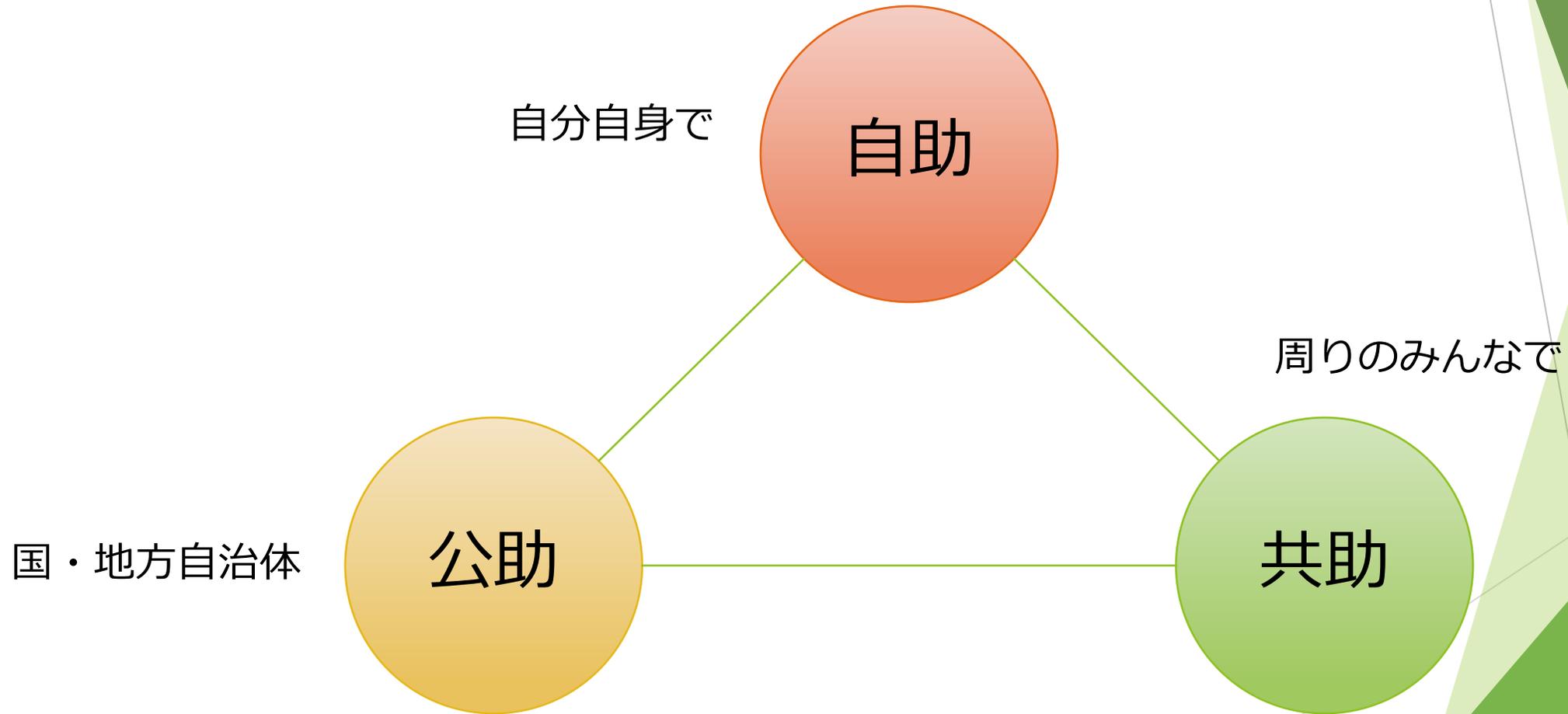
- ・ホームレスの方も、日雇い労働者もかつては、「普通」の生活をしていた
 - ・不況、災害、介護問題 etc . . .
- 様々な社会情勢の煽りを食らった人たち

その土地の歴史
時代背景
社会情勢

本当に
「**個人主義（自己責任論）**」で
済ますことはできるのか

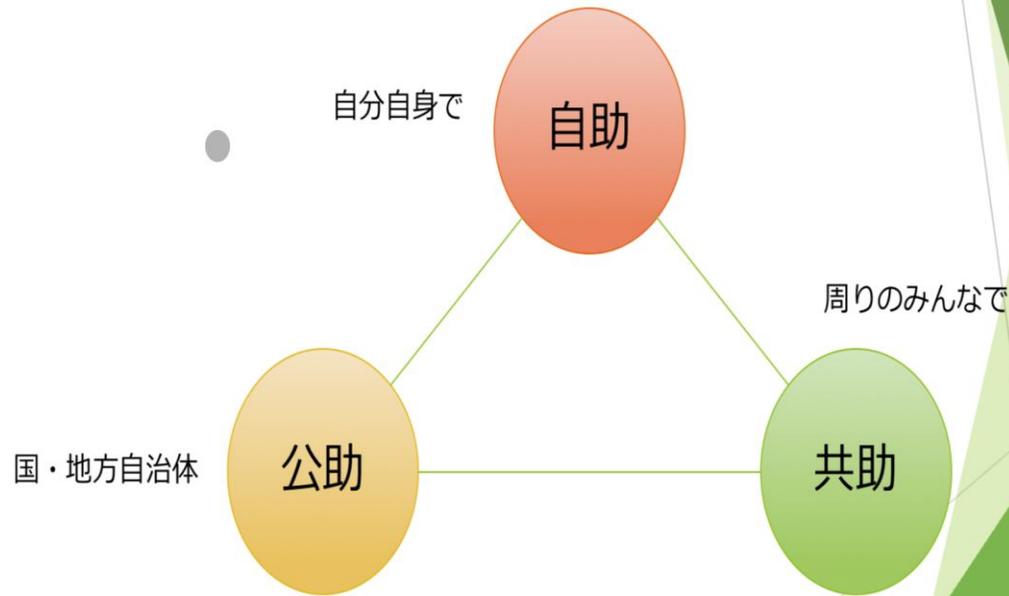
考察

「日雇いのまち 釜ヶ崎」から考える社会のあり方



考察

「日雇いの街 釜ヶ崎」から考える社会のあり方



現在は自助
(個人主義) が
強く
公助は縮小している

国や地方自治体に救いの手を伸ばして欲しい

社会的弱者と呼ばれる人たちの居場所はどこなのか

どこでもいい

社会的に排除する風潮が、彼らの居場所を無くしている
→「生きていい場所」を探す
→社会復帰は二の次。今を生きることには精一杯

社会制度の構築や行政介入だけでは
抜本的な解決にならないのは当然

もし、釜ヶ崎の街が良くなったら・・・

日本の未来も明るいものになるかもしれません

**～これからを生きる社会が目指すもの～
差別や偏見のない、誰1人取り残されない
包括的な社会の実現を**

ご清聴ありがとうございました